北海道七飯高等学校　硬式野球部　～Catch　a　dream～

粉骨砕身　　百折不撓

「令和元年度第 58 回春季北海道高等学校野球大会函館支部予選　結果」

５月１１日（土）から行われた春季大会に本校野球部も参加をしました。初戦、函館西高校に、延長１３回タイブレークの末に４対３で勝利。終始先攻を許す苦しい展開でしたが、粘り強く戦い抜き、勝つことができました。続く、３回戦は、ベスト４をかけ、第１シードの函館工業と対戦。投手の丁寧な投球と野手陣の頑張りで、終盤まで食らいついていきましたが、1 対２で敗れました。ベスト４進出を目標に努力を重ねてきましたが、悔しい結果になってしまいました。しかし、これまで懸命に取り組んできた、成果を出すことができ、最後の夏に向けて自信を深めることができました。応援にきていただいた、生徒、保護者の方々、先生方、地域の方々、本当にありがとうございました。

地域に応援される野球部を目指して

【１回戦】

対　函館西高校　４－３　勝　（延長１３回タイブレーク）

【準々決勝】

対　函館工業高校（第１シード）　１－２　負

七飯　延長サヨナラ

▽2回戦

函　西	000	110	000	000	1	3
七　飯	000	100	010	000	2×	4

（延長13回）

七飯は先制を許した直後の4回に近藤の左前打、佐藤孝の犠打で2死二塁とし、中畑の長打で同点。1点を追う8回は佐藤駿、近藤の連打で再び振り出しに戻した。延長13回無死一、二塁のタイブレークに突入。佐藤駿の内野ゴロが敵失を誘い、無死満塁で近藤、小原の連続死球でサヨナラ勝ちした。守備は先発の西村が終盤のピンチで踏ん張るなど好投した。

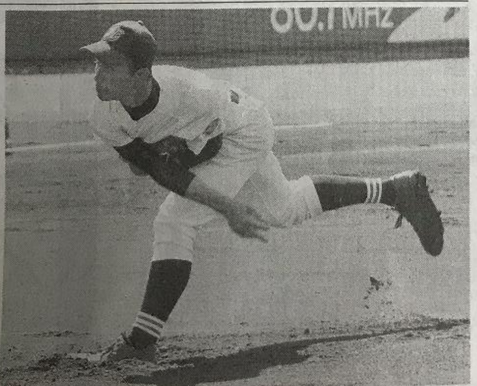
函西はエース・佐々木を中心に粘り強く戦うも、延長10回1死三塁の好機を生かせなかったのが痛かった。

エース・西村　力投169球

延長13回3時間9分。タイブレークにもつれ込んだ激闘を制した七飯は歓喜に沸いた。有澤勝利監督は「要所で一つのアウトをしっかりと取れた。キャッチボールから1球1球考えながら取り組んできて、成長してくれた」とたたえた。

初戦で敗退した秋。まずは春の1勝を目指して体作りを徹底。保護者の支援もあり、練習の合間におにぎりを食べるなど、各選手3～5キロの増量に成功し、打撃力、球速が上がったという。さらに練習試合を約15ゲームをこなし、課題を明確にしながら今大会に向けて仕上げてきた。

1年生からマウンドに上がってきたエース・西村爽吾（3年）が冷静だった。中盤に2失点も終盤はスライダーを決め球にピンチで踏ん張った。「失点後も切り替えて、慌てずに投げることができた」と納得の表情を見せた。169球の力投に有澤監督も「丁寧に投げてくれたことに尽きる」と褒めた。



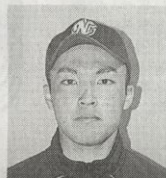
【2回戦、函西―七飯】粘り強く延長13回を投げ、3失点と好投した七飯エースの西村

3度のビハインドをはね返しての新チーム初勝利に福田駿介主将（同）は「どんな展開でも諦めずに逆転を信じてプレーできた。サヨナラ勝ちを勢いに全員野球を徹底したい」と言葉を弾ませ、第1シードとの大一番に意欲を燃やした。

太洋（オーシャン）日記

努力実った好プレー

「思い切って飛んだらグラブに入ってくれた」。5回二死満塁のピンチでヒット性の当たりを前に飛び込んで好捕し、失点を防いだ七飯の左翼手・福田駿介主将（3年）はビッグプレーに笑みをこぼした。



小中学校はサッカー部。高校入学後から野球を始め、「先輩後輩関係なく守備のいろはを教えてもらった。一つ一つを貪欲に吸収してきた」。

敗れはしたものの、地道な努力が実った好プレーを機に、最後の夏へ「球を見極める力を高め、1試合でも多く勝ちたい」と力を込める。

ご声援ありがとうございました